

第3回 八幡市総合計画審議会 議事要旨

■日 時：平成29年8月29日（火） 14:00～

■場 所：八幡市文化センター 4階 小ホール

■出席者

【委員】

家村 咲栄 委員、石川 純 委員、泉谷 透 委員、井上 好光 委員、岡山 敏哉 委員、尾形 良治 委員、沖田 悟傳 委員、奥村 正明 委員、加藤 博史 委員、木下 重喜 委員、川原 絵美 委員、河原崎 保 委員、小林 敦 委員、辻村 修太郎 委員、豊田 勝代 委員、橋本 行史 委員、古市 久子 委員、藤田 美代子 委員、政 博之 委員、松下 順英 委員、松本 伍男 委員、溝口 知男 委員、八木 英夫 委員、吉田 元男 委員

【市役所】

丹下 均 副市長 以下部長級職員

【事務局】

足立 政策推進部長、曾我 政策推進部次長兼政策推進課長、堀川 政策推進課係長、岡田 政策推進課係長

■欠席者

岩成 功 委員、岡本 圭司 委員（代理出席：京都府山城広域振興局企画総務部長 小谷 充茂 氏）、高田 稔幸 委員、田中 恆清 委員（代理出席：一般社団法人八幡市観光協会専務理事 佐野 良夫 氏）、谷口 栄一 委員、田邊 昭 委員、中川 一 委員、東出 成記 委員

■次第

1. 開会
2. 協議・報告事項
 - (1) 今後の予定について
 - (2) 部会の検討状況について
 - (3) 「将来都市像」と「基本方針」の設定について

■配布資料

- <資料1> 第5次八幡市総合計画策定スケジュール（新旧）
- <資料2> 部会長報告
- <資料3> 「将来都市像」と「基本方針」等の設定に向けて（案）

■傍聴者

1名

1. 開会

(人事異動に伴う委員交代のあった1名を紹介。)

国土交通省近畿地方整備局 淀川河川事務所 所長 東出成記委員

丹下副市長：8月末、まだ暑い日が続き、ご多忙の中、第3回審議会にご出席を賜り、感謝申し上げます。

前回はご提案した6つの施策体系に基づき、基本構想の方向性、基本計画の考え方についてご意見を賜った。より深くご議論いただくために2つの部会が設置され、5月から7月にかけて部会でご議論いただき、有益なご意見をいただいた。それを本日、全体会として共有し、基本構想の柱となる将来都市像や基本方針について検討を進めていただきたい。また、当初予定していた検討スケジュールを一部見直しており、後ほど説明をさせていただく。委員の皆様には、既に様々な観点からのご意見をいただいているが、それを踏まえながら、まちづくりの大きな方向性についてご議論いただくよう、重ねてお願いしたい。

橋本会長：5月から7月にかけて2つの部会に分かれて審議した。本日は各部会の部会長からご報告をいただき、ご意見や情報を皆で共有したい。この総合計画はそろそろ着地点を見据えて意見集約をする段階に入っている。本日の議論を通じて着地点を探したいのでご協力いただきたい。

次第に基づき、議事に入る。まず、今後の予定について事務局からの説明をお願いしたい。

事務局：(資料1 説明)

橋本会長：事務局からの説明に質問やご意見はないか。

なければ、続いて部会の検討状況について、まず第1部会 加藤部会長にご報告をお願いしたい。

加藤部会長：(資料2 1～4ページ 説明)

橋本会長：第1部会の報告に関して、ご質問、ご意見があれば。

部会での議論はどのように本体に反映させれば良いとお考えか。

加藤部会長：6つの柱が相互に働きあうようなシンボリックな事業があれば良いと思う。

また、それぞれの意見を反映するように、施策の中で積極的に取り組んでいただきたい。後ほど第2部会の説明もあるが、全体の姿や全体のつながりが市民に見えるような提示の仕方があればと思う。6つともに重要な柱であり、大切

な意見、生かしたい意見がたくさん出たので、ぜひとも実施計画にも生かしていただきたい。

橋本会長：6つの柱をつなぐシンボリックな事業が総合計画と軌を一にしてできれば良いということと、6つの基本目標を市民の方に分かりやすく、(個別のことはきっちり生かしたうえで)全体像が理解できるように示す必要があるということであった。第1部会の委員の皆さんで、部会では言えなかったけれど本会で言っておきたいというようなことがあればお願いしたい。また、第2部会の委員の方々からも、質問やご意見があればお願いしたい。

なければ、第2部会のご報告も聞いて、一緒に意見をうかがうこととする。

岡山部会長：

(資料2 5～8ページ 説明)

橋本会長：第2部会での意見をどのように集約されようとしているか、ご意見をお聞きしたい。

岡山部会長：部会では具体的な話がかかり出た。総合計画の中で具体的な話を網羅する必要はないのだろうが、「誰がイニシアティブを取って、誰がサポートして、どういった施策として進めていくのか」ということを示したうえで、実施計画に落とし込んでいくことができる、具体的な施策に結び付くような方向性のある整理の仕方が重要ではないかと思う。

橋本会長：基本目標の全体のつながりを重視すること、計画と具体的な取組をつなげることが大事ということであった。

委員：感じたことを申し上げると、基本目標のどれを見ても、テーマだけ見れば八幡でなくてもやっていることである。お金もそれほど豊かでない中で、八幡で目指すものは何であるか。人と人がつながることで思いもかけないものを生み出す力がキーになるのではないか。1つの案からイメージして広げていったほうが良いと思うが、そうなる则全体のにはどう考えていくべきか、思案しながら眺めていた。要は、みんなが作り上げる、市民全体が作り上げるということかと思う。

基本目標2では、子どもがしっかり育てば将来いろいろな効果をもたらすということ。基本目標3では、健幸に向けての取組を行っていくことで健幸になり、健幸であれば財政も楽になるということ。このように、将来を考えるということは、時間の経過とともに化学変化を起こしていくものを期待することではないかと思う。ここで重要なのは対話力。「対話力」はいろいろな意味を含んでいるが、若者だけでなく全世代で不足しているのは聞く力である。聞いて伝えようとする則勉強する必要が出てくる。勉強して得る知識だけでなく、頭の中で

考える力も必要。大脳を活性化させる活動をすることが、いろいろなところに派生していくため、ひとつひとつの言葉に重みを感じながら参加させていただいている。

委員 : コンセプトを絞り込んでいくのは難しいが、八幡の強みをもっともっと知らせていく必要があるということ、情報公開・情報発信がうまくいっていないことが共通してあったのではないかと思う。行政としては弱者を切り捨てるわけにはいかないが、そうでなく、強みの方を生かしていくことや、シビックプライドを醸成するというキーワードを絞り込んでいけると良いのではないか。

橋本会長 : 八幡の強みを吟味して伸ばしていくということをテーマにすれば良いのではないかというご意見であった。「八幡の強みが何であるか」ということについて部会での委員の方々の意見を集約できていないが、どのあたりが強みだろうか。

委員 : 歴史的な文化、自然に囲まれた地勢をどう生かすか。それが子どもの教育にもつながっている。八幡のブランドとしての農作物や果物は、あまり目立たない。お茶もどうしても宇治がイメージされてしまう。宇治と変わらないお茶があるというあたりをもっともっと PR してはどうか。

橋本会長 : 子育て環境に恵まれていることの背景に、歴史や自然といった環境が強みとしてあるのではないかということ。テーマそのものとしては、基本目標 2 に子育てがある。両部会長からお話があったように、基本目標を並べ替えたり背景化したりすることでもう少し強みが認識できれば良いと思うが、可能だろうか。

岡山部会長 : できると考えている。基本目標 1、3、4 は現在のことを言おうとしていて、八幡の特徴である歴史や産業を打ち出そうとしている。基本目標 2 と 5 は、それを将来につなげようとしている。それを受けて、基本目標 6 で恒久的、持続可能な形に続けようとしている。そういった視点で整理して分かりやすく示すことはできるのではないか。

橋本会長 : そういうことを反映したものを事務局にお願いしたい。

委員 : 感想になるが、各部会で議論されている内容の中で、いろいろと良い言葉がある。私は「楽しみながら住む」「幸」「賢い子ども」といったキーワードに（良い意味で）ひっかかる。集約させていく中で、人の気持ちや感覚といったものを表す言葉をそぎ落とすのではなく、できるだけ生かして計画を作っていけると良いと思う。

橋本会長 : 集約する段階で固い言葉に置き換えるのではなく、感情に働きかけるような言葉はできるだけ残してほしいということであった。

委員 : 観光についてはポイントをしっかりまとめていただいていると思う。それ以外の部分でいうと、今後、人口減少が日本中で進み、活力がそがれる中で、どう生き残るかということの議論を深めるべき。ソフト関係は、お金があればいくらでも拡大できるが、10 年というスパンで見たときに、ハード面の土地利用を

どう考えるかが大事。高速道路が3本もあるが、これをどう生かすのか、これを使って土地利用を抜本的に見直すのかということをつかりやすい形でしっかり示していただきたい。

橋本会長：基本目標5に近いところをもう少し踏み込めないかということであったかと思う。

岡山部会長：現状の記載でもかなり踏み込んではいるのではないか。具体的な施策への転換でいうと、行政側がどう考えているかは分からないが、全国的には立地適正化計画ということで、市のストラクチャーの見直しに対して、国が補助を出すと言っている。それを行政の方で検討いただいて、「都市機能をどのように集約して、効率性の高いまちづくりにしていくか」「居住地、農地、産業地の大きな土地利用の区分けの中で、どのようなストラクチャーを八幡市として考えるのか」という方向性を総合計画の中で出すことができるかということだと思う。

橋本会長：コンパクトシティにはいろいろと失敗例もある。八幡市がコンパクトやネットワークでまちづくりを考えた場合、懸念はないのか。

岡山部会長：先ほど人口減少の話も出たが、土地利用を考えていく中で住宅地、農地、産業用地のポテンシャルの見極めや将来の発展の可能性、居住地はどういう町にすると皆さんに住んでいただけるかといったことの見通しを誤ると失敗する。それをしっかり考える必要がある。

橋本会長：人口が6万5千人に減少していく中にあり、土地利用計画を含めた交通インフラ整備にあたって、どう見極めをするか。その見極めは総合計画でするものなのか。

岡山部会長：総合計画は方向性を示せば良い。具体的にはいろいろなアクションプランの中で考えるべき。

橋本会長：大きなまちづくりとして、ソフトも大事だが、「ハードでどのようなまちの形を構想するか」はまちの骨格を決めるものであり、20年、30年と影響していく。せつかくの機会であり、ご意見をいただきたい。

委員：全体を眺めて思ったことは、1つは、持続可能は必要だが「人口が減っていく」という視点がないのではないかということ。もう1つは、高速道路は10年もすれば神戸ともつながるが、その交通網を「生かす」という視点が弱いのではないかということ。

橋本会長：全体として「人口減少社会が盛り込まれているのか」という問題提起をいただいた。また、総合計画にどこまで求めるか、という問題は別にして、交通網等の変化を踏まえた計画にもう少し踏み込むべきではないか、ということであった。

委員：個別具体にどうかということではなく、方向性として盛り込んでいるかどうかということ。具体的に書くのではなく、視点として見ておくべきということだ

ある。

岡山部会長：アクションプランや都市計画マスタープラン、立地適正化計画などで押さえておかなければならない。高速道路のインターチェンジができて、第二京阪道路沿いは企業の問い合わせもありポテンシャルが高い。部会でも指摘があったが、ここで放っておくと物流系の企業だけ来ることとなり、市にメリットが少ない。生産性の高い、雇用の創出が期待される企業を誘致したいが、どのような誘致策を考えるのかといったかなり具体的な意見が出た。それをどうまとめて総合計画の中に生かすのかということはこれから検討する必要がある。居住地については、「人口減少にどのようにして立ち向かうか」は欠けている部分だと思う。立地適正化計画の中でインフラ誘導地域と居住誘導地域の部分がある。居住地の質を高めるのももちろんだが、その中に人口減少の視点をどう盛り込むかということは検討していかなければならない。

委員：「総合計画」として、市全体のあり方に、都市計画・土地利用の方向性等も含まれるべきで、コンパクトシティの考え方のほか、特に世代間が交流できる施設、生活者の集まる場所と産業が集まる場所を分けるなど、しっかりと考える必要がある。八幡市になって40年、八幡市に定住し八幡市を「ふるさと」と思う人も増えている。そういった安定した生活者の思いをどう生かしていくかも大切。

橋本会長：コンパクトシティといっても、青森市や富山市はバックヤードが広い。八幡市は大都市に挟まれた限られた地域であり、かつ、人口がはりつかれている中で、コンパクト化するのは難しいのではないかと。コンパクトの意味をどう考えるかということもあると思う。中心地なのか、公共施設等をイメージするものなのか、居住地域を含めたコンパクト化を考えるのかも出てくるのではないかと。

(休憩)

橋本会長：再開する。第1部会、第2部会の報告から、核心に迫る部分まできているが、時間の関係上、またご意見をいただくものとし、次の「将来都市像」と「基本方針」の設定について、事務局から説明をお願いしたい。

事務局：
(資料3 説明)

橋本会長：ご意見をいただきたい。人口減少と長期財政見通しによる歳入減を踏まえた計画にしなければならないということと、将来への魅力を感じられる計画にしなければならないということであった。

委員：私が八幡市で好きなところは、田園風景と流れ橋と浜茶の景観。都市と農村地

域が上手に融合しているといったことが感じられる計画になると良いと思う。

委員 : 総合計画だから、まんべんなく、いろいろな分野をカバーしなければならないのだと思うが、1つの自治体で全部をカバーするのは無理がある。ポイントを絞って、次世代に向けて、また、世代別の将来に向けた施策が必要。何が最も大事かという、人口が増えることではないか。そうすると、高齢者や子どもを持った世帯が住みたいと思えるような施策は無理がなくていいのではないか。「稼ぐ」ことは大事だが、本来、八幡市は住宅都市として発展してきた。立地条件からも、職は大阪や京都にある。あえて地元で職を作り出さなくても、住宅ゾーンであると考え、関西圏の中での八幡市の立ち位置が見えてくる。計画が絵に描いた餅にならないようにする必要がある。

橋本会長 : 住宅都市の本分に帰るべきというご意見であったかと思う。

委員 : 安全・安心のため、皆様方とともに、特に高齢者と子どもの防犯対策についてしっかり取り組んでいくことが必要と考えている。

委員 : 市内の公園の利用方法について、いろいろと意見も出ていたが、制限が厳しくなって、何のために公園を整備したのかわからなくなっている。ペットの禁止やボール遊びの禁止など、何のための公共空間か分からなくなってくる。生涯スポーツの観点からも利用条件をやわらげてほしい。

委員 : コンセプトが出てきてはいるが、情報発信が少ないということがポイントだと思う。八幡市はいろいろなことをしているので、あとはアピールが必要。

委員 : 市のイメージが良くないという話が出ていたが、玄関口である京阪八幡市駅前が玄関口にふさわしくないと思う。また、情報発信は常にどんどん積極的に出していくべき。

委員 : 小学校の英語教科化や、中学校では英語の授業をすべて英語で行うことなど、小中の教育内容が大きく変わる。グローバル化に対応した、自ら課題を見つける主体性と、みんなで一緒に解決する協働性が、これからの子どもたちに大事だという視点もほしい。

委員 : 2年前に車いす生活になったが、小学校に寄せていただいてもトイレが使えない。大きさが合わなくて座れないし、つかまる棒がないと立てない。歩道を進んでいても3センチの高さを上がれない。健康な時は考えたことがなかったが、少しの穴でも進めなくなる。そういったことを考えてほしい。

橋本会長 : 基本である福祉等を十分に考えた総合計画に。

委員 : 八幡市といえば、やはり歴史と文化が豊かな点。観光との融合、都市整備との融合、それを重視していただければと考えている。

委員 : 地域福祉と災害弱者支援、地域単位での各種団体がまとまりに欠けている。行政の音頭取りで地域福祉の推進のために何とかならないかと思う。

委員 : 子育て支援に力を入れているが、子育て世代の都市部と田園部の交流ができて

いないことが残念である。

- 委員 : 子ども文化祭が知られていない。もっと知ってもらふ必要があると考えている。
- 委員 : 部会で意見して、報告の中でもいろいろと取り入れていただいた。商工会としては、産業の育成に力を入れて、産業会館のような多目的ホールをつくってほしい。
- 委員 : 事務局から財政の話があったが、大変な問題だと思う。重要なのは自主財源の確保。「歳出の抑制や基金の確保」とあるが、金のなる木が必要。「活力ある八幡」という言葉をどこかに入れられないか。土地利用の思い切った見直しなど、具体的に実現するような明るい見出しを考えていただきたい。北陸新幹線がどのように影響するのかということもある。
- 委員 : 子どもたちが「学校が楽しい」と思えるようにしたいと考えている。いま「学校が楽しい」と思っている子は、八幡市内の小学校においては9割前後で、中学校になると少し落ちる。最終的には学力の話になるが、いかに良い教師のもとで学べるかが大事である。「わかる、できる」がいつの時代も合言葉。そういった質の高い授業をしたときは子どもたちの目が輝く。教師の働き方改革等で、教師に余裕を持たせて質を高める必要がある。学校教育にお金をかけていただいて、質の高い教育を維持できるようにお願いしたい。
- 委員 : それぞれの部会でたいへん熱心に議論がされた。人口減少、高齢化社会を背景に、今後10年間の指針を示すのにふさわしい基本目標が設定されている。財政制約の中でどう実現するかということには、市民協働が大事になる。目標に向けた実施計画を広く市民に開示するべきである。「この事業はこのようにする。財源は国から〇〇、府から〇〇、市から〇〇である。企業からの寄付や市民やNPO団体の参画数は〇〇・・・」など、内容を目に見える形でしっかり示すことを提案したい。
- 委員 : 基本目標3と4に非常に興味を持っている。資料3の「現状・経過」によると44億円の財源不足がこれから生じるようだが、たいへんなことだと思う。
- 橋本会長 : 将来都市像について、委員の皆さんの意見を集約するところまではいかないが、「財政難、人口減少等が降りかかってくる中、市民の協働で活力を作り出す」ということについては合意をしたと思う。全体を通じて、大きな都市づくり、つまり交通インフラやまちの基本計画についてももう少し踏み込むべきではないかという議論があった。宿題と受け止めて、事務局等と検討したい。議論しきれなかったことは意見シート等を書いてお寄せいただきたい。時間になったので、質疑等を終了し、事務局から「その他」について説明をお願いしたい。
- 事務局 : 我々の宿題としていただくことになったのは、「6つの基本目標がどのようにつながるのか」ということを、見える形でどのようにお示しできるか考えるとい

うことと、将来都市像と基本方針をしっかりと案としてご提示するということになるかと思う。各部会で議論いただいた基本計画の意見を持ち帰り、各部局で精査して改めてご提示したい。本日の課題であった、土地利用を含めた都市形成・都市空間の形成については、都市計画マスタープランの議論も始まっていることなどから、方向性としてどこまで出せるのか整理・検討してご提示したい。少し時間をいただきたいので、次回の日程はまだ決まっていないが、10月に開催したいと考えている。日程は決まり次第、ご連絡する。

橋本会長：ご意見等があれば、ぜひ事務局までご提出いただきたい。

それでは、第3回八幡市総合計画審議会を閉会する。本日は、ありがとうございました。

以上

※発言者を示す「委員」には、代理出席者を含む。